

日本語教室部会が「袖っ子まつり」に参加しました 子どもたちの研究発表とともに交流しました

小島葉子（日本語教室部会）

NIA 日本語教室部会の活動「世界を知ろう」サポートプランは、2013 年より国際理解学習の支援活動として、日本語学習者とボランティアと一緒に市内の小学校に出向き、外国人と子どもたちとの交流の場を設けて来ましたが、今年度は2018年1月27日（土）袖ヶ浦西小学校の「袖っ子まつり」に参加しました。

当日は学習者などが22名（9ヶ国:タイ・フィリピン・ネパール・バングラデシュ・ベトナム・ペルー・ブラジル・中国・韓国）、ボランティア26名、その他に学校が招いたALTのアメリカ人1名の参加がありました。

これまでの他校では、NIA側が主体となって教室内に参加国のテーブルを作り、学習者と子どもたちが交流する形でしたが、今回は「袖ヶ浦西小学校の6年生が世界の国々について研究発表する場に参加する」という初めての試みとなりました。

参加した外国人のみなさんは、民族衣装をまとったテーブル（タイ、ペルー、ネパール、バングラデシュ）、国の民芸品や特産品を展示したテーブル、風習や本を紹介したテーブルなど、各々が趣向を凝らしていました。そして来場した子どもや保護者に配布した台紙に

自国の国旗シールを貼りながら子どもたちと触れ合ってくれました。他にも自国の歌（中国）やダンス（ペルー）で花を添えてくれた学習者もいました。

子どもが研究発表するのみのテーブル（7ヶ国）もありました。「アフタヌーン・ティー」に関連付けた紅茶の試飲（イギリス）、トイレットペーパーを巻き付けた男子が扮したツタンカーメン王とその棺（エジプト）、地図上に珍獣や名所を書き込んだ「双六」（オーストラリア）等、子どもの準備工夫した物も面白く、その発想の豊かさや頑張りには眼を見張るものがありました。台紙に国旗シールを貼る作業も楽しそうにやっていました。子ども家族も多数訪れてくださり、小さな子どもと一緒に「世界のコイン（お金）」や「世界の民族楽器」に手を触れる光景もほほえましいものでした。

16ヶ国の交流の場は、2つの教室を使い、それぞれが小さなスペースではありましたが、子どもたちが習志野市在住の外国のかたちや世界の国々に関心を持つ機会となったなら嬉しいことです。



バングラデシュの
テーブル(上)。



子ども
たちの発表
テーブル、
エジプト
(左)。



ブラジルのテ
ーブル(上)。

ペルーのジュリア
さんのダンス(右)。



フィリピンの
テーブル(左)。